

# 令和4度 「世界史A」 シラバス

【単位数：2単位 履修年次：3年次】

## 1. 学習の到達目標

学習の到達目標	<p>1 近現代史を中心とする世界の歴史を理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培う。</p> <p>2 日本・沖縄の歴史と関連づけることにより、世界の歴史を自分の事としてとらえ、歴史的事項について主体的に考察させる。</p> <p>3 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることにより、国際社会に生きる公民としての自覚と資質を養う。</p>
使用教科書 副教材等	「高等学校 世界史A」 第一学習社

## 2. 学習計画および評価方法等

### (1) 学習計画など

学期	月	学習内容	学習のねらい
前期	4	オリエンテーション 第2編 世界の一体化と日本 第1章 ユーラシアの諸文明	大航海時代の始まりによる世界の一体化が進行するまで、地域世界ごとに歴史が進行していた。風土や民族に留意しながら、各地域の社会や歴史を理解する。
	5	①東アジア	
		②南アジア	
		③東南アジア	
		④西アジア	
		⑤ヨーロッパ	
	6	⑥アフリカ・アメリカ	
	6	第2章 結びつく世界と近世の日本 ①14～17世紀のアジア ②ヨーロッパの「大航海時代」 ③ルネサンスと宗教改革 ④ヨーロッパ主権国家体制の成立	大航海時代に世界の一体化が始まったことを理解する。 中世の権威や倫理を批判する文化運動として、ルネサンスと宗教改革が行われたことを理解する。
	7	第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 ①産業革命 ②アメリカ独立革命 ③フランス革命	イギリスで産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。 アメリカやフランスの市民革命により、人権尊重や自由主義の思想が芽生えたことを理解する。
8	④ウィーン体制	ウィーン体制の特色を理解する。	
9	⑤イギリスの繁栄	イタリアとドイツの統一過程を理解する。 ロシアの近代化における問題点がロシアの社会	

前期		<p>⑥イタリアとドイツの統一 ⑦ロシアの近代化とバルカン半島</p> <p>第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>①オスマン帝国の衰退と西アジア ②南アジアの植民地化とインド帝国 ③清の動揺</p>	<p>構造にあることを理解する。</p> <p>ヨーロッパ各国がアジアに進出し、植民地を形成したことを理解する。また、西欧列強のアジア進出によって、東アジア世界・日本・沖縄の社会も変容したことを理解する。</p>
<p><b>【課題・提出物等】</b></p> <p>1 授業ごとのプリント提出</p> <p>2 夏休み等、必要に応じて課題を提出させる場合もある。</p>			
<p><b>【前期の評価方法】</b></p> <p>1 授業への参加意欲や態度・授業プリント・発問評価・授業ワーク・定期考査等で評価する。</p> <p>2 定期考査等6割程度、提出物・授業態度など4割の配分で評価を行う。</p>			
後期	<p>10</p> <p>11</p> <p>12</p> <p>1</p>	<p>第3編 地球社会と日本</p> <p>第1章 帝国主義の時代</p> <p>①帝国主義の時代 ②列強の世界政策 ③アジア太平洋地域の分割とロシア</p> <p>第2章 急変する人類社会</p> <p>①大衆の登場と国民統合</p> <p>第3章 世界戦争と平和</p> <p>①第一次世界大戦 ②ヴェルサイユ・ワシントン体制 ③アジアの独立運動とラテンアメリカ</p> <p>④世界恐慌 ⑤日本の軍国主義と中国 ⑥第二次世界大戦</p> <p>第4章 三つの世界と日本の動向</p> <p>①戦後世界の出発 ②戦後の東アジア ③戦後の西アジア・アフリカ</p>	<p>欧米列強の中で植民地拡大と軍備増強の競争が激化（帝国主義）したことを理解する。</p> <p>帝国主義により世界各地に植民地が形成されたことを理解する。また、帝国主義に対抗する形で各地域の民族意識が高まったことも理解する。</p> <p>19世紀末から20世紀初頭にかけての欧米諸国や日本などに見られた社会の急激な変化に着目させ、現代社会の原型が成立したことを理解する。</p> <p>第一次世界大戦により西欧諸国の力が弱まり、アメリカ・ソ連の2大国が台頭することと、アジア諸国での独立運動、民族運動が高まったことを理解する。</p> <p>世界恐慌によりファシズムが台頭したことを理解する。日本が起こした十五年戦争と沖縄戦についても学習する。</p> <p>第二次世界大戦後、米ソ両国を中心とした東西対立（冷戦構造）が起こったことを理解する。</p>

後 期	2	第5章 地球社会への歩みと課題 ①アメリカ合衆国の動揺 ②アジア・アフリカ・ラテンアメリカの 変容	1960年代後半から1980年代末までの地球社会形成に向けての各地域世界の変化の大きな流れを理解する。  1970年代後半から冷戦終結までの東西両陣営の動向と、ヨーロッパ統合の経過を理解する。
	3	③冷戦の終結 ④冷戦後のアメリカと国際社会 ⑤21世紀の世界と日本	冷戦終結後の国際社会において、国連を中心とした国際協調外交がますます重要になってくることを理解する。
【課題・提出物等】			
1 授業ごとのプリント提出 2 冬休み等、必要に応じて課題を提出させる場合もある。			
【後期の評価方法】			
1 授業への参加意欲や態度・授業プリント・発問評価・授業ワーク・定期考査等で評価する。 2 定期考査等6割程度、提出物・授業態度など4割の配分で評価を行う。			

## (2) 評価の観点

評価の観点および内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>一生懸命最後までやろうと努力する意欲や態度がみられるか。</li> <li>世界史に対する関心を高めているか。</li> <li>意欲的に課題を追求するとともに、学習を通じて、市民としての責任を果たそうとしているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での態度</li> <li>授業プリント</li> <li>発問評価</li> <li>授業ワーク</li> <li>定期考査</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史的・地理的事象から課題を見いだすことができる。</li> <li>我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察できる。</li> <li>国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での態度</li> <li>授業プリント</li> <li>発問評価</li> <li>授業ワーク</li> <li>定期考査</li> </ul>
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界史に関する基本的な事項と自分自身の在り方・生き方を関連づけて主体的に理解し、その知識を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業での態度</li> <li>授業プリント</li> <li>発問評価</li> <li>授業ワーク</li> <li>定期考査</li> </ul>